

いとしのレトロ玩具

いとしのレトロ玩具



もう逢えないと思ったた、
がここにある

写真撮影OK
エリア多数

2023
7.1 SAT
9.24 SUN

弥生美術館

Yayoi Museum

My Favourite Retro Toy

ヤヨイビジュツカン

ごあいさつ

玩具とともに人は成長し、その懐かしい思い出とともに生きていきます。

いつだって楽しくて魅力的で、ときには寄り添い、友とも師ともなる、「**玩具**」という小さくて大きな存在は、他の動物がつくり出すことのなかった、人類が生み出した奇跡のひとつと言えるでしょう。

16世紀から19世紀にかけて世界的にも突出したおもちゃ文化をつくりあげた日本の**玩具**界は、続く20世紀の激動の中、目まぐるしい変化を遂げました。

可愛くて、繊細で、ユニーク。どの時代においても当時最先端の技術を詰め込まれ、人々の夢と憧れを一身に背負った**玩具**たちは、まさに世相を映す鏡でした。

本展では、20世紀日本の玩具界に訪れた大きな二つの変革（時代の精神・価値観といった文化的変革、テクノロジーの発達による変革）を軸に、遊び心と夢にあふれた**レトロ玩具**のあれこれをご紹介します。玩具史に今も燦然と輝く100年間のムーブメントを追います。

おもちゃ遊びを卒業しても、かつて遊んだ**玩具**の思い出は、心の糧であり続けるでしょう。昨今のkawaii文化やミニチュアブーム、ホビーブームの世界も、**玩具**の世界と地続きにあります。大人になっても可愛い**玩具**に心惹かれてしまう、そこには、きっと彼らの持つ不思議な魔法があるのです。その秘密を、皆さまと共に解き明かしたいと思います。

展覧会の見どころ

貴重な、歴史的
玩具遺産も展示。
玩具の歴史を、
紐解きます。

出品総数、
700点以上が
一堂に会します。

写真撮影
OK エリア
多数！

大人も楽しめる
現代の
ホビーブームや
Kawaii文化にも
迫ります。

玩具の歴史を振り返る・戦後復興と日本が誇る玩具たち



①ソルジャー（兵士）
オキュパイド・ジャパン製
増田屋齋藤貿易/1940年代
/増田屋コレクション蔵
©Masudaya Corporation



②歩行熊
増田屋齋藤貿易/1948年（昭和23）
/増田屋コレクション蔵
©Masudaya Corporation



④歩行人形 (Walk Doll)
増田屋齋藤貿易/1952年（昭和27）
/増田屋コレクション蔵
©Masudaya Corporation



③ムーンロケット
増田屋齋藤貿易/1960年代
/増田屋コレクション蔵
©Masudaya Corporation



⑤ブリキ製冷蔵庫
増田屋齋藤貿易/1950年代
/増田屋コレクション蔵
©Masudaya Corporation



戦前には玩具大国ドイツに迫り追い越す勢いで「メイド・イン・ジャパン」の玩具輸出量を誇っていた日本の玩具界は、第二次世界大戦によって大打撃を受けます。

戦前の子どもたちが遊んでいた玩具の数々から、「Made in occupied Japan」（占領下の日本製）の時代を経て、華麗によみがえった戦後日本の玩具をご紹介します。

当時の技術の粋が凝らされた戦争直後の玩具たちからは、苦難の中でも前だけを見据えて挑んだ先人たちの底力をうかがい知ることができます。

My Favourite Retro Toy

「プラスチック玩具」の登場



⑥ティーセット
小田川商店/1955年(昭和30)



⑦ままごとあそび
三浦トイ/昭和30年代

プラスチック・ビニール製玩具の登場は、玩具界に大革命をもたらしました。金属のように錆びたりせずセルロイドのように燃えやすくない、この画期的新素材は、玩具の世界にも続々と投入され、今まで表現できなかった形状や色彩をもつ新しい玩具が誕生しました。



⑧マスダヤ 社会科玩具シリーズ
お店さんごっこ
増田屋齋藤貿易
/1956年(昭和31)発売
©Masudaya Corporation

進化し続ける玩具たち



⑨ママ・レンジ
アサヒ玩具/1969年(昭和44)



⑪きょうちゃん
タイガー魔法瓶/1976年
©TIGER CORPORATION



⑩De-luxe KITCHEN SET
ダイヤ/1970年代



⑬Little MAMA KITCHEN SET(キッチン)
大和玩具株式会社
昭和30~40年代
(左)



⑫ダリヤ リボンおふろセット
ダリヤ/1970年代
©DARIYA
(左)

昭和30年代以降の技術革新により、三種の神器(白黒テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機)、やがて新三種の神器(自動車、クーラー、カラーテレビ)が登場すると、大衆の消費欲望は最高潮を迎え、経済成長を促進していきました。そんな大量消費社会において、子どもの玩具も現実の大人社会に倣った発展を遂げてゆきます。

大人が欲しいものは、子どもも欲しい。願えば憧れが手に入る、そんな活気あふれる時代に合わせ、さまざまなギミックを搭載、自在に進化する玩具たちをご紹介します。

⑭タミーちゃん(Tammy)
米・アイデアル
/1962年(昭和37)
(右)



大人も夢中！
現代ホビー、
ミニチュアスームの
真髄に迫る



⑮食品サンプルデコシール・マグネット
末武サンプル
©末武サンプル



⑯レトロ喫茶 ゼリー&かき氷マスコット
トイズスピリッツ/2022 年
©2018 TOYS SPIRITS CO.,LTD.
All Rights Reserved.



⑰ぶちサンプルシリーズ 海辺の温泉宿 夕波
リーメント/2023 年
©2023 RE-MENT

開催概要

展覧会名称

いとしのレトロ玩具
もう逢えないと思ってた、がここにある



会期

2023 年 7 月 1 日（土）～9 月 24 日（日）

会場

弥生美術館（1～2 階）

住所

〒113-0032 文京区弥生 2-4-3

電話

03（3812）0012

休館日

月曜日
＊ただし 7/17・9/18（月・祝）開館、7/18・9/19（火）休館。

開館時間

午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

入館料

一般 1000 円／大・高生 900 円／中・小生 500 円
＊竹久夢二美術館と 2 館併せてご覧いただけます。

交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉1 番出口よりいずれも徒歩 7 分
JR 上野駅 公園口より徒歩 20 分

ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji.museum.jp>

主催

弥生美術館

協力

株式会社増田屋コーポレーション/一般財団法人 日本玩具文化財団/
株式会社リーメント/株式会社パイロットコーポレーション/
株式会社トイズスピリッツ/タイガー魔法瓶株式会社/株式会社エール

◆お知らせ◆

- ✿展覧会限定メニュー・限定グッズ、撮影スポットも登場。
- ✿「宇山あゆみ スタイリング」コーナー の展示があります✿
- ✿新刊『いとしのレトロ玩具 もう逢えないと思ってた、がここにある』
河出書房新社 1980 円（税別）
展示とあわせてお楽しみいただけます。
- ✿学芸員によるギャラリートークを開催します。
8/12（土）・9/9（土）いずれも午後 2 時から（約 45 分）
事前申込不要、無料（要入館料）

☎ 展覧会についてのお問い合わせは…

弥生美術館 学芸員 井口令菜（いぐちれいな）までお願いいたします。

TEL 03-3812-0012 FAX 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

弥生美術館 井口行

いとしのレトロ玩具
もう逢えないと思ってた、がここにある

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載誌（紙）／放送予定番組名	
発売／放送予定日	
会社名・ご所属／ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○印をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）																
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データのご提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールにて画像データをお送りします。

ご希望の場合は、この用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。

また弥生美術館写真（外観／展示室）等、他に必要とされる資料がございましたらご連絡ください。

※図版にはすべてキャプション表記をお願いいたします。

※著作権は各玩具メーカー・版權元が有しますが、本紙掲載画像を展覧会広報の用途で使用する場合に限り、使用許可を得ています。図版使用の際にはクレジットを必ず入れていただきますようお願いいたします。

※画像のデジタルデータの転用は禁止です。ご利用後は破棄していただきたく、お願い申し上げます。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。上記にてお申し込みください。

掲載誌（紙）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、御手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・掲載物送付先】〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3 弥生美術館 担当：井口